

石和温泉の旅 2019



2019年8月

旅のチカラ研究所 植木圭二

孫のお宮参りを兼ねて山梨県の石和（いさわ）温泉に妻と行ってきた。高速道路とかんぼの宿のコラボ企画を使い、バリアフリーの部屋にも泊まってきた。そして山梨県の素晴らしさを感じる旅にもなった。

■高速道路の乗り放題割引プラン

高速道路のサービスエリアで面白いチラシを見つけた。高速道路周遊パス+宿泊プランというNEXCO 中日本でやっている「速旅ドライブプラン」だ。

孫のお宮参りを山梨で行うので、私は何とかこれが使えないものかと NEXCO 中日本のホームページを調べてみた。そして見つけたのは首都圏エリアの高速道路 IC から乗って山梨県内の高速道路が 2 日間乗り降り自由、つまり乗り放題の周遊エリアになり、加えて石和温泉のかんぼの宿の宿泊が付いているというものである。このプランは高速道路を単純に往復するだけでも価格的なメリットがある。旅のチカラ研究所としては、研究のためにこのプランを使わない手はない。

調べていくと山梨県だけでなくその他の県でも同様なプランがあり、さらにかんぼの宿との提携だけでなく他の宿泊施設やゴルフ場との提携プランまである。あるいは周遊エリアがもっと広いプランもあり、NEXCO 東日本や西日本でも同じような様々なプランをやっている。とにかく ETC さえついていればこの恩恵にあずかることができる。

■新日本三大夜景

私たち夫婦は早速そのプランを使って、孫のお宮参りに山梨を訪れる。午前中にお宮参りを終えて、午後からは石和温泉近隣の観光に出かける。

そして兼ねてより行きたいと思っていた「笛吹川フルーツ公園」に向かう。何故行きたかったかということ、ここは新日本三大夜景に選ばれたところで「山梨県笛吹川フルーツ公園から望む笛吹市の夜景」ということで石和温泉のある笛吹市が綺麗に見えるという触れ込みである。ただこの公園は笛吹市の隣の山梨市にあり、山梨市立公園であるのも面白い。

新日本三大夜景のあとの 2 つは「若草山から望む奈良市の夜景」、そして「皿倉山から望む北九州市の夜景」になっている。ついでに旧来からの日本三大夜景とは函館、神戸、長崎である。

LEDなどの技術革新もあり、街路灯が増えて夜の街は明るく綺麗になっている。さらに道路の整備により夜景の鑑賞ポイントも増加し、夜景は確実に進化している。

そのようなこともあって新日本三大夜景が2003年に選定されたのだろうが、大都市集中への対抗策そして集客というのが一番の理由のようにも思える。ただし単純に夜景そのものだったら地方都市ではなく明らかに東京や大阪に軍配が上がる。何しろ使っている電気エネルギーの消費量は全く次元が違う。

■ 笛吹川フルーツ公園

フルーツ公園に着いたのは午後2時前、陽はまだ高く夜景にはほど遠い。それは百も承知でやって来たのでフルーツ公園内の散策をするが、公園そのものを見るにはむしろ昼間の方がいい。

山梨県は桃とブドウとスモモの生産高が日本一、そしてサクランボ、キウイフルーツ、カリンなども上位にランクしており、その他にも多数のフルーツ栽培が盛んで、いわばフルーツ王国だ。ここはそのフルーツ王国を象徴するような公園になっており、次第に私たちはこの公園の凄さに圧倒されていく。

公園は標高500m～600mの山の斜面に作られた広大な施設で面積32.2haということで、おおよそ400m×800mになるが、いわゆる東京ドーム換算では7個分にあたる。その広い公園の中には各種果樹園と芝生が広がっており、その手入れの良さもまた驚くべきものになっている。そしてそれら緑の中には花壇もあって赤や黄の花が見事に咲いている。

公園からは新日本三大夜景の笛吹市の街並みが見える。盆地なので山に囲まれているが、その山の向こうには富士山が見えるからこれも見逃せない。



緑や景色の次に目を引くのは、わんぱくドーム、フルーツ広場、くだもの工房という3つの大きなガラス張りの透明なドームがある。そして子供が遊べるアクア・アスレチック、フルーツ・アドベンチャー、遊具広場などもある。

今は夏休み中なので家族連れも多く訪れており、子供たちが元気に遊んでいる姿はとても微笑ましい。午前中にお宮参りをした孫も少し大きくなってここに連れてきたら、あんな笑顔で遊ぶのだらうと思うとなおさらだ。

とにかく広い果樹園と自然の中で笛吹市の街並みを上からの望み、水遊びやいろいろな遊具で楽しめるのだから、家族そろって弁当持参で来て丸一日楽しむには持ってこいだらう。

何ととっても驚くべきことはこれらの施設は全て無料で、公園の入園料も駐車料金もかからない。



公園内には有料施設もある。有名な富士屋ホテル、展望レストラン、BBQ レストラン、23時までやっている日帰り温泉施設、横溝正史館などバラエティに富んでいる。

富士屋ホテルはあの有名な富士屋ホテルチェーンの一つで、もちろん結婚式も出来る。富士山と新日本三大夜景の眺望はきっと結婚式に華麗で大きな花を添える。

山梨県はフルーツも凄いが文化や教育のレベルが高い。数年前に秩父往還という旧道を甲府から熊谷まで歩いた時にも感じたが、今回も全く同じ思いがする。その時は甲府の図書館があまりに近代的で素晴らしものだったので最初は図書館だと分からなかったということがあった。

さすがに武田信玄が治めた国だけのことはある。(旅行記「秩父往還歩き旅 2015」参照)

■ほったらかし

公園を出て、さらに山の上の方に登って行くと「ほったらかし温泉」という最近有名になった温泉がある。

このユニークな名前は、サービスも何もしないのが勝手に温泉を楽しんでくれという説や、温泉が出たのに地主はほったらかしていたという説がある。いずれにしてもほったらかしていたということだ。

しかし、今は決してほったらかしていない。大きな駐車場も整備されて平日だというのにそれを見る限りはたくさんの方が訪れている。そしてこの温泉施設は日の出前から営業しているというので温泉に浸かりながら夜景と日の出を両方見ることが出来る。

隣の敷地には「ほったらかしキャンプ場」というのがある。ここはフルーツ公園より 100mくらい標高が高いので景色はさらに良く見ることが出来る。

キャンプ場の管理人と話をする、キャンプ場は通年営業で土日はほぼ年中満員、お正月はさらに予約が取りにくいという。

確かにこのキャンプ場は人気がありそうだと直感的に分かる。キャンプをしながら夜景と星空を同時に楽しむことが出来るキャンプ場はあまりない。キャンプ 300 泊の私にしてもあまり経験のないロケーションである。

ここにはいずれキャンプに来ないといけない。40 年来飼っている私のキャンプの虫が騒ぎ始めている。



■石和温泉

本日は石和温泉のかんぼの宿「石和」に泊まる。

石和温泉は 1961 年にブドウ園から高温の湯が湧き出て、近くの川に流れ出して青空温泉という名前で有名になった。泉質は PH9.1 のアルカリ泉で、湧出温度は 49°C というから少し冷ませば適温になるので青空温泉になった理由が分かる。



この温泉地の特徴は甲府盆地の平らな土地から温泉が湧出し、最初はブドウ園だったかもしれないが、今では街の所どころから何カ所も湧きだしている。

だから雰囲気は他の温泉地とは全く異なっており、昔ながらの宿や温泉街と呼ばれるものは無く、広々とした土地に近代的な建物の温泉ホテルが点在している。

■かんぼの宿に初宿泊

かんぼの宿とは、昔は郵便局、今は日本郵政株式会社の経営する宿泊施設である。

2007 年の郵政民営化以前は郵便局が旅館業を営むことは民業圧迫になるとかで、簡易保険加入者のみを対象とした会員制の宿として運営されていた。ただ会員制とはいえ、簡易保険加入者は相当多かったのも、あまり制限されていたという覚えがない。私の知り合いにもかんぼの宿の信望者がいて、よく誘われたことを思い出す。しかし残念ながら実現しなかった。

現在はもちろん大手を振って一般利用が可能になったが、かんぼの宿も他の公営宿泊施設のように利用客の減少や施設の老朽化などで事業の見直しを求められており、順次閉鎖や譲渡を進めている。

ここ石和のかんぼの宿は閉鎖の雰囲気は感じられないが、やはり公営の宿だなというのが正直な感想である。公営の宿らしく建物や施設は立派でかなり余裕のある作りをしている。その余裕は従業員の人数にも表れており人員配置は最適人数よりも多い。例えば私が朝風呂から出てくる時に 5 人くらいの風呂掃除をする人たちが待っていた。この人数であの風呂の掃除をするのか、とても驚く。

ただ好意的に考えれば、その余裕がお客様には安心感を与える。

私の手元にあるパンフレットを見ると、2019 年現在かんぼの宿は全国に 51 施設ある。その全ての施設でバリアフリールームがあるというから凄い。

そしてこれは良い体験ができると私たち夫婦はバリアフリールームに泊まる。

■バリアフリールームを初体験

私にとってバリアフリールームは初体験だが、妻は介護関連の仕事をしていることもあってあまり感激もないようだ。それでも設備がよくそろっていると云っている。

部屋は広く、十分な余裕がある。ベッドが 3 台置かれており、3 台のうち 1 台が介護ベッドになっている。ベッド以外に 4 畳くらいの小上がりがありテーブルや座布団が置いてある。驚いたのは小上がりの高さが 40cm 程あるので、楽に上がれるように引き出しのような階段が出てくるようになっている。これはよく配慮されていると妻が言う。

さっそく私は初体験の介護ベッドに寝てみる。ご存知のように電動で起き上がったりできるもので、こんなものかと思いつつ天井を見つめると頑丈なレールが天井に埋めこまれている。

そのレールに網状のハンモックのようなリフトを付けて人を乗せて移動できるようになっており、レールはトイレと風呂のある洗面所へと繋がっている。レールを追いかけて洗面所に行ってみると、レール切り替えの分岐装置があり便器か浴槽かリフトに乗って直接着けるようになってい



こんな至れり尽くせりの部屋に通常の部屋の価格で泊まれるというのは、改めて公共施設の必要性や存在意義を感じる。

それでも施設が閉鎖されては元も子もない。

なぜ公営施設はダメになるのだろうか。

それは本稿のテーマではないので深入りしないが、今年の春に泊まった茨城県の公営国民宿舎「鶉の岬」は 20 年以上も続けて国民宿舎人気ナンバーワンの宿になっている。公共の宿といってもやり方次第というところだろう。(旅行記「南関東の旅 2019」参照)

■温泉評価委員会

私は温泉宿を評価する温泉評価委員会、通称「おひょい」を立ち上げている。それは温泉に行った時に組織される勝手気ままな委員会で、委員は同行した人になる。何が良かったとか悪かったとか、あれこれ話し合いながらも最終的に温泉や宿を評価して数値化する。

評価項目は、温泉については泉質と風呂（湯船や湯殿）に分かれている。費用が高くて良いのは当たり前ということでコスパや、料理、秘湯度なども評価する。

評価は基本 5 段階の主観評価で、各委員の平均値を算出する。

かんぼの宿「石和」の評価結果は、泉質 3、風呂 3、料理 4、コスパ 4、秘湯度 2、サービス 4、建物・部屋 4.5 で総合点は 3.5 になった。秘湯ではないのでこの項目を除外すると 3.75 になる。

■旅の記録と予約支払い方法

実施は 2019 年 8 月 23 日（金）～24 日（土）の 1 泊 2 日、費用は夫婦 2 人分で合計約 3 万円になる。1 泊 2 食付き宿泊費は 11500 円／人、詳細は以下に示す。

ネクスコ中日本「速旅ドライブプラン」	13400 円（高速道路 3400 円＋宿泊代 10000 円）
かんぼの宿で支払い	13000 円（上記宿泊代の不足分）
ガソリン代	2300 円（往復約 200km）

今回は周遊エリア内で何度も乗り降りせずに単純往復しただけなので、価格メリットは少ない。それでも神奈川の海老名 IC と山梨の一宮御坂 IC を単純に往復すると 5240 円かかるが、これが 3400 円になった。その他特典として夕食時にビールやワインなど人数分の 1 ドリンクが付く。

速旅ドライブプランには 10000 円分の宿泊費が付いており、不足分を宿で払うようになっている。宿泊費は一人 11500 円、二人で 23000 円なので 13000 円を現地で支払う。

予約や支払いの方法は、電話もしくはインターネットでかんぼの宿を普通に予約する。予約時に速旅ドライブプランを利用する旨を伝えるか連絡事項に書き込む。

宿の予約後に NEXCO 中日本のホームページで手続きをする。この時に ETC カードの番号を入力するので、高速道路の往復と周遊エリアの通行費用 3400 円は ETC で支払われる。速旅ドライブプランに付いている 10000 円分の宿泊費はこの時にクレジットカードで決済する。

10000 円では宿泊費が不足するので、その不足分は現地かんぼの宿で支払う。